



平成 30 年 11 月 22 日

しののめ信用金庫 上半期決算概要を公表

預金、貸出金ともに堅調に推移当期純利益 713 百万円を確保

▼ しののめ信用金庫（群馬県富岡市 理事長 横山 慶一）は、平成 30 年度上半期決算概要を公表するとともに、「平成 30 年度経営内容の中間報告（平成 30 年 9 月 30 日現在）」（半期ディスクロージャー誌）を開示しました。

▼ 貸出金は、事業性融資では建設業、卸小売業、医療・福祉等を中心に資金需要に積極的に対応したことや、事業性評価に基づく融資の推進をスピード感を持って対応したこと、また、個人向け融資では住宅ローン、消費者ローンについて、店頭や渉外での営業活動に加えて、ローンプラザ（土日営業店舗）やインターネットで手続き可能なローン商品の取扱いなど、利便性の高い販売チャネルでの推進を強化しました。
その結果、貸出金残高は前年同期比で 5,047 百万円（増加率 1.12%）増加し、453,498 百万円となりました。

預金残高は、個人、法人ともに流動性預金を中心に前年同期比で 18,731 百万円（増加率 1.93%）増加し、987,777 百万円となりました。貸出金、預金ともバランスよく堅調に増加しています。

▼ 損益については、マイナス金利政策等の影響もあり、貸出金利回りの低下による貸出金利息の減収を主な要因として、業務収益は前年同期比 104 百万円（1.70%）減少し、6,040 百万円となりました。業務費用は、前年同期比 49 百万円（0.94%）増加し 5,237 百万円でした。

その結果、業務純益は前年同期比 153 百万円（16.08%）減少し、803 百万円となりました。本業での収益力を示すコア業務純益（実質業務純益－国債等債券損益）は、57 百万円（10.50%）増加し 606 百万円となりました。

当期純利益は、前年同期比 361 百万円（33.61%）減少し、713 百万円となりました。

平成 29 年度は特殊要因として道路拡張による城南支店の移転補償金および国債等債券償還益を計上しており、平成 30 年度上半期はこうした特殊要因はなく、前年同期対比の減少要因となっております。



- ▼ 自己資本比率は国内基準で求められている4%を上回る7.44%（前年同期比0.20%減少）となりました。コア資本（分子部分）は当期純利益713百万円を確保したものの、分母となる貸出金や有価証券のリスクアセットが増加したことによるものです。
- ▼ 金融再生法に基づく開示債権（不良債権）は、18,607百万円、その内訳は「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」が2,834百万円、「危険債権」が13,382百万円、「要管理債権」が2,391百万円。不良債権比率（金融再生法に基づく開示債権比率）は、4.09%と低い水準であり貸出資産の健全化が図れています。

前年同期（平成29年9月期）との増減を、主な開示項目ごとに表でまとめると以下のとおりです。

金額単位：百万円

| 開示項目 | 29年9月期 | 30年9月期 | 増減値 | 増減率 |
|---------------------|---------|---------|--------|---------|
| 預金積金残高 | 969,045 | 987,777 | 18,731 | 1.93% |
| 貸出金残高 | 448,450 | 453,498 | 5,047 | 1.12% |
| 業務純益 | 957 | 803 | △153 | △16.08% |
| 実質業務純益 | 972 | 857 | △115 | △11.86% |
| コア業務純益 | 548 | 606 | 57 | 10.50% |
| 経常利益 | 1,219 | 833 | △386 | △31.68% |
| 当期純利益 | 1,074 | 713 | △361 | △33.61% |
| 金融再生法に基づく開示債権（不良債権） | 17,136 | 18,607 | 1,470 | 8.58% |
| 開示債権比率（不良債権比率） | 3.81% | 4.09% | 0.28% | — |

（計数については単位未満を切り捨てて表示しています。）

当金庫は、平成30年度上半期の経営内容を開示したディスクロージャー誌を作成し店頭にて備え置くとともに、ホームページ上でも同じ情報を開示いたします。